



わかたけ

山形市立南小学校
学校だより
R7.8.27発行
第6号
校長 横山 聡

2学期スタート！～心に耳をかたむけ合い～

32日間の長い夏休みが終わり、26日（火）から2学期が始まりました。

2学期のスタートをきる大事な始業式に、どんな話をすればよいか迷いましたが、児童会目標「心に耳をかたむけ合い、みんなが大好きな『自分』と『学校』を創りあげよう」について話をすることにしました。

今回は、特に「心に耳をかたむけ合い」に焦点をあてました。この言葉には、「相手の声や思いを聞こう。そして、共感し、理解し合おう」という思いが込められています。「仲よく」や「助け合い」などの温かいイメージをこの言葉に入れたのだそうです。

学校生活は、授業も含めて「聞く」場面がとても多いものです。話を丁寧に聞いてもらおうと、自分を受け入れてもらっているという安心を感じます。基本的自尊感情の醸成につながります。「心に耳をかたむけ合い」ながら聞くことができれば、みんなが安心して学級・学校にいられるようになります。もちろん、学力向上にもつながります。

では、声や思いを聞くために大事なことは何か…。丁寧に相手の伝えようとする聞くことに尽きるのですが、そのためには、意味がわからないなと思ったことをそのままにせず質問することが大切です。話を聞いていて、「うん、うん、わかる、わかる」となるか、「ん？どうということなのだろう？」となるか。集中して聞いていないと、いつの間にか「ん？」を流してしまうものです。「ん？」をそのままにしない、ちゃんと尋ねることが話し手を大切にすることです。

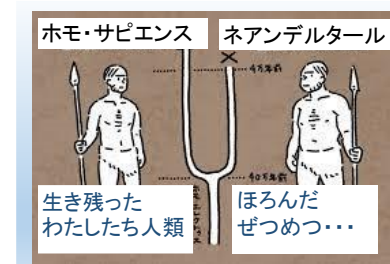
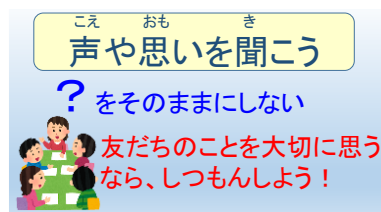
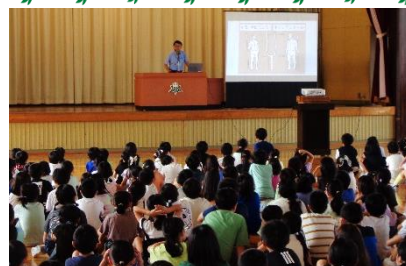
これができると、一見受け身のように感じられる「聞く」が能動的なものになります。

「聞く」ことがどれほど大きな意味をもっているか説明するために、2つ例をあげて話をしました。

1つは、私たちがこうやって、話し合ったり、考えたりすることができるのは、言葉を使えるからであって、その言葉はどうやって身に付けたかという、生まれた直後から「聞く」ことによって獲得したのだということ。

2つ目は、私たち生き延びているホモ・サピエンスと絶滅してしまったネアンデルタール人との違いについてです。ネアンデルタール人は、ホモ・サピエンスよりも体も大きかったし、脳も大きかったのだそうです。

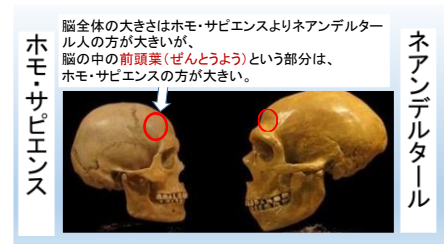
では、なぜ、私たちは生き延び、ネアンデルタール人は絶滅したのか。その秘密は脳の中の「前頭葉」にあります。「前頭葉」は、話したり考えたりすること、計画を立てて取り組むこと、人を思



いやな気持ち、協力することなどの力を司るのだそうです。そのため、ネアンデルタール人は「見えるもの」「ふれられるもの」などについては言葉にできるが、「目に見えないもの」「実際にふれることができないもの」については、言葉にできなかったのだそうです。一方、ホモ・サピエンスは「目に見えないもの」「実際にふれることができないもの」についても言葉にできたといわれています。

この結果、ネアンデルタール人は「マンモスがいるぞ!」とは言えただけでも、「心を一つにして、しあわせな村をつくりましょう」という会話ができなかった。ホモ・サピエンスはそういう会話ができた。やさしさ、思いやり、うれしい、楽しい、よろこび、目に見えないもの、触れることができないもの、について話ができただ。ホモ・サピエンスが生きのびたのは、ネアンデルタール人より言葉を豊かに使って、思いやりや協力する力があったからなのだと考えられています。

生きのこるための大切なポイントは、「言葉を豊かにやりとりすることができる」「人の気持ちを思いやることができる」ことと考えられます。これは、「ありがたい学級・ありがたい学校」をつくるポイントにもなります。「心に耳をかたむける」ことができたなら、きっと大好きな自分と大好きな学校を創ることができます。子どもたちの取組みを教職員一同精一杯支えていきたいと考えています。2学期もどうぞ、本校教育活動への理解とご協力をお願いいたします。



東日本の陸上記録会 わかたけっ子の活躍!!

8月11日に開催された青函交流陸上競技青森大会・東日本都道府県小学生陸上競技交流大会青森大会に6年生5名が山形県代表として出場し、以下のような素晴らしい成績を収めました。

- ・小学5・6年男子4×100mR 第1位
齋藤蓮人さん・結城拓海さん・小山亮吾さん・矢ノ目瑛太さん
- ・5・6年男子走り高跳び 第2位 結城拓海さん
- ・6年男子100m 第7位 矢ノ目瑛太さん
- ・5・6年男子幅跳び 第12位 工藤貴丈さん



成績はもちろんですが、選手たちの素晴らしさは、大会に向けて夏休み中、自主的に早朝7時頃集まって、練習に取り組んでいたことです。本校で育成を目指している資質・能力が発揮されていますね!

1. 「生きる支えとなる資質」

◎「すき・あこがれ」「やってみたい」がある⇒感性・感動・欲求の主体化

※ 自分の好きなことや、やりたいことをはっきりもっていて、それを目指すとき、人は喜びを感じます。多少の困難があっても乗り越えていこうとします。自分たちで進んで早朝から集まって練習しようとするエネルギーはまさに感性・感動・欲求によるものです。

2. 「学習の基盤となる資質・能力」

◎問題発見・目標設定能力 ◎問題解決・目標達成能力

※ 記録更新を目指して、いつ集まって、どのように練習するか計画を立て、試行錯誤しながら練習し、評価し次の練習に活かしていく。「目標設定→解決のための方策検討→実践→評価→次の取り組み」のサイクルが回っていますね。